研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-142	B-210	20-420	厚生会　道ノ尾病院　福嶋　翔 独立行政法人国立病院機久里浜医療センター　松下幸生

題名（原題／訳）

Regulation of Craving and Negative Emotion in Alcohol Use Disorder
アルコール使用障害における渇望と否定的感情の制御

執筆者 Suzuki S, Mell MM, O'Malley SS, Krystal JH, Anticevic A, Kober H.

掲載誌

Biol Psychiatry Cogn Neurosci Neuroimaging. 2020 Feb;5(2):239-250. doi: 10.1016/j.bpsc.2019.10.005. Epub 2019 Dec 28.

キーワード	PMID
アルコール使用障害、渇望、感情調節、負の感情、渇望の調節、fMRI	31892465

要　旨

目的：アルコール使用障害（AUD）は、慢性的で再発しやすく、治療効果が低い疾患である。アルコールへの渇望とネガティブな感情はともに飲酒量を増加させるが、健康な成人であれば、前頭前野（PFC）に依存する認知的な戦略を用いてその効果を弱めることができる。しかし、AUD は、認知機能の低下と PFC の障害を伴う。そこで本研究では、AUD 患者が PFC をうまく活用して渇望やネガティブな感情を効果的に調節できるかどうか、2 種類の調節の間に神経メカニズムが共有されているかどうか、そして調節の成功に個人差が影響しているかどうかを検証した。

方法：機能的 MRI を用いて、AUD 患者は渇望調節課題（n = 17）を行った。この課題では、手がかりによる渇望の誘発条件と指示による調節条件を比較した。また、感情調節課題（n＝15）では、否定的な感情の条件と指示された調節の条件を比較した。感情制御課題は、AUD の認知行動療法の治療法を参考にした。各試行において、自己申告による渇望感と否定的感情を収集した。

結果：AUD 患者は、認知行動療法に基づく戦略を用いて渇望と否定的感情を制御するように指示されると、効果的に制御することができた。また、渇望やネガティブな感情に関連する領域（腹側線条体、扁桃体など）の活動の低下と関連していた。渇望の効果的な制御は、アルコールに対する否定的な期待感と関連していた。

結論：AUD における渇望とネガティブな感情の制御には、個人差はあるものの、共通の制御システムと異なる制御システムが存在する。このことは、AUD 治療に重要な意味を持つ。